

# 水拓

第卅五号昭和卅四年七月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

七 月



兵庫県漁業協同組合連合会  
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

# 四十七漁家が日記帳を 沿岸漁業集約経営調査のスタート

本年から鹿の瀬漁場を中心として沿岸漁業集約経営調査が始められた。これのねらいは「資金と技術と労働を最も有効的に使って、漁家の経営の合理化をはかり、漁民の暮らしをらくにすること」にあるが、ではこの狙いをどのような形で現わすか。そのためにどのような形にして調査をするのかということについてのべてみたい。

調査区域は、鹿の瀬海域に關係のある漁村とし、次の九市町村、三八組合をとりあげた。

市町村調査	東明石浦・明石浦・林崎・屏風浦・魚住東二見・西二見	水産加工業協同組合
第一	明石市	明石
阿閉村	阿閉村 古宮本荘	
加古川市	別府町・尾上	
高砂市	高砂・荒井村伊保・曾根	
家島町	家島 坊勢	
淡路町	岩屋・岩屋共栄・浦・仮屋釜口	岩屋
第二		

津名町	佐野・生穂・志筑浦・塩田	
北淡一町	野島浦・富島浦・室津浦	育波
第一宮二町	尾崎・郡家浦江井・山田	

第一調査地域とは、鹿の瀬礁において操業する漁業者が多いとみられる漁村で、総合的調査を行う地域

第二調査地域とは、右以外で同海域において操業する漁業者が多いとみられる漁村で、比較対象のための抽出調査を行う地域

次に、何故鹿の瀬海域を本県がとりあげたか。

この海域は、本県内海の漁業の特色を最も鮮明に表しており、この調査の結果が、単に本海域に依存している漁村に利益を及ぼすのみならず、ひろく全県下の沿岸漁業の振興の基礎資料とすることができると。また「鹿の瀬会」という漁業権管理組織ができており、漁村の青年婦人の組織も進んでいる。さらに水試から至近距離にある点、調査対象として

便利であること等を考慮して選んだ。

## 根付、磯付、底魚が重点

調査の方針としては、

- 1、根付、磯付、底魚資源に重点をおき、大回遊性魚族は副とする。
- 2、加工業の振興対策と漁業生産物の消費流通関係の調査を行う。
- 3、漁閑期対策を考慮する。
- 4、漁業経営の協同化を図る。
- 5、漁業調整のための対策を特に考える。
- 6、沿岸漁業振興総合対策事業、新農山漁村建設事業、浅海増殖事業、水産業技術改良普及事業などの沿岸漁業振興対策との合理的な組み合わせを考慮する。

この調査の運営上、特に今迄の調査と違った特色は、各方面の学識経験者を含めた調査班を組織することである。調査班の仕事は、調査計画をたて、結果の取りまとめや検討をするいわば、参謀本部的役割で、その構成は次のようになっている。

- (1) 県水産課
- (2) 県水産試験場
- (3) 水産庁瀬戸内海漁業調整事務局 (赤井資源課長)
- (4) 農林省兵庫統計調査事務所 (森)

## 目次

四十七漁家が日記帳を 沿岸漁業集約経営 調査のスタート……………	1
小型漁船機関の事故 原因とその防止対策……………	4
捲揚機の利用とその応用 第五回水産業改良普及 研究発表全国大会より……………	6
全水共だより……………	9
農林年金だより……………	9
昭和三十四年三月・四月 中の海面漁獲量の概要……………	12

水産統計課長)

- (5) 神戸大学理学部 (広瀬教授)
  - (6) 神戸大学教育学部 (麓助教)
  - (7) 兵庫県立農大 (高山助教)
  - (8) 兵庫県立姫路短大 (末政教授)
  - (6) 関係地域の沿岸漁業改良普及員 (県職員) 及び市町村駐在の水産業改良普及員 (県非常勤嘱託員)
- 又、協力組織としては、水産庁研究第二課、関係市町村、県漁連、内海漁連、信漁連、水産業改良普及協会、明石市漁協連合会、鹿の瀬会、淡路水交会連合会、関係漁業協同組合、同婦人部、青年部にお願いしている。

### 一年目は漁家経営分析が中心

調査期間は三カ年計画で行われる。第一年目は、関係漁村のありのままの実態をつかみ、その実態をもととして経営の不合理なところを見つけ出す。従って詳細は後にのべるが、経営分析調査が主体となる。しかし、経営分析調査をまっまでもなく、不合理性がはっきり分っているものについては、第一年目からこれに対する対策調査をすることになっている。故に、第一年目は経営分析調査を完了し、問題点を出すことと、経営分析調査をするまでもなく明らか

かにされている問題点についての対策調査を行うことの二点を中心である。

第二年目は、第一年目に出された問題点に対する対策を確立するために、現在の最高の知識を用いて実験と調査を行い、技術的に可能なものが出来るかどうか見通しを検討し、その計画をたてることが中心である。しかし、第一年目において、すでに問題点が出され対策の調査が行われたものは、企業化試験が行われることもありうる。

第三年目は、第二年目で検討した企業化の見通しのある漁業、養殖、加工業について、企業化のための実験を行う。この実験は、試験場と漁民との協力で実施したい。実験の結果、企業化されるものもあろうし、現在の技術や制度では不可能という答となるかもしれない。

三年間へたこの調査は、今後の企業化についての運動がその後行われ完了することになる。

要するに、集約経営調査は、漁家の経営を合理的に行うための調査であり、事業ではない。ある地域の現状をつかみ、その地区でどういう所に問題があるか、それを打破するた

めにはどうすればよいかというところを調査するのが目的である。理想的には、内海漁業の縮図である鹿の瀬の集約経営の結論により、今後の沿岸漁業の振興対策の基礎資料としたいと思う。

今でもすでに問題点が分りその対策もたてられ、事業化しうるものは、どしどし事業を行うべきである。現に、本県では、本年から沿岸漁業振興総合対策事業がとりあげられ、国の補助をうけて、内海各地で行われようとしている。

又、愛知県は、昭和三十二年から集約経営調査を実施しているが、魚の価格の変動が漁家の経営に大きく影響していることが、第一年目の経営分析調査により分り、これの対策

## 経営分析は、団体、漁家、加工業者を対象として四つの角度から調査

さて、以上のような目的をもつ集約経営調査を本県では、具体的にどのように行うのか。

前述したように、この調査の第一年目は、経営分析調査が主である。本県では、これを、市町村、漁業協同組合、漁家、加工業者等を対象として、つぎの四つの角度から行うこ

としては、一週間か十日程度蓄養しておけば有利であることが明らかになった為、集約経営からはなれて、昭和三十三年に沿岸振興対策事業として、国の補助をうけて蓄養池を作っている。

ここで他府県の状況をのべると、昭和三十二年からはじめられたこの調査は、すでに十三県で行われている。

昭和三十二年に着手したのは、宮城、愛知、岡山県の三県で、本年は第三年目に入っている。第二年目を迎えるのは、北海道、京都、富山、山口、長崎の各府県で、本年から青森、茨城、神奈川、鳥取、兵庫の五県が行うことになった。

とにしている。

1、団体 (市町村又は漁協) を対象とするもの

イ、集落調査

漁村又は部落の自然環境や産業構成や歴史等を、古老からの聞き取り及び古文書の分析等をして行う。この調査は兵庫農科大学

に特に協力を求めて行く。

ロ、漁協調査

財務諸表による漁協の経営状況の調査を行い、必要により聞取調査をする。

特に、共同漁業については、詳細な調査を行う予定である。

以上の調査は八、十月に実施する。

2、漁家を対象とするもの

イ、世帯カードによる調査

この地域の全漁家及び加工業経営者の大体の状況を知るために行うもので、六月初旬に漁業協同組合に配布し、七月十日頃に回収の予定である。このカードによって分ることは、漁家については家族数及び職業、健康状況、漁業依存度、漁獲高、出漁日数、漁船の保有状況、従事漁業種類、田、畑、山林の保有状況、家屋の大きさ、貧困の程度組合への加入状況等であり、加工業経営者については、家族の状況、生産量、稼動日数、土地の保有状況等である。

又、このカードにより次にのべる聞取調査の漁家を抽出する。

なお、この調査には、財団法人兵庫県水産業改良普及協会、鹿の瀬会、漁業協同組合、関係市

町村の多大の協力をえている。

ロ、聞 取 調 査

世帯カードにより、階層別に標本を抽出して水産課の協力を得て聞取によって詳細な調査をする。時期は七月末から八月にかけて行う予定。

ハ、精 密 調 査

農林省が行っている漁家経済調査に準じて、漁家及び加工業者の家計状況を含む経営内容の実体をつかみ、合わせて前記の聞取調査の不備を補うために行うもので、五月から準備にかかり六月末に漁業協同組合の協力を得て、対象漁家三十二戸（加工業者四名含む）の選定を終り、七月一日から一斉に開始した。作業としては、来年六月三十日まで毎日日記帳をつけることであるが、内容は現金、掛、現物取引に分けての家計記帳と、自営操業の漁業については、漁業種類別に漁場、労働時間、労働人員、エンジンの稼動時間、燃油消費量、魚種別漁獲高を記入する、又家族の内でのやとわれている人についての作業種類名と労働時間を書くことになっている。記帳は複写になっているの

でやや面倒であるが、何とか一年間がんばってつづけて頂くようお願いしている。

記帳についての現地指導及び回収は、沿岸漁業改良普及員（本年七月一日からはじめて設置され本県では四名で、淡路三名、摂播一名）と市町村水産業改良普及嘱託員及び漁協組の職員等にお願ひし、その分析は、水試及び姫路短大（家政学科）で行うことにしている。

分析結果は、毎月の月計表と一年中の年計表を対象漁家にお渡しすることにしている。

又、加工業については、家計は省き加工業の経営についてのみ記帳することにし、加工業の営業状況については、原料の仕入れ、加工作业、製品の販売に分けてその状況を記入する。七月上旬に、当初の財産調査を行う。

対象漁家の分布は次のとおりである。

明石市 一一戸

- (明石浦 (2)、林崎 (5)、屏風浦 (1)、西二見 (1)、明石加工 (2))
- 阿閉村 二戸 (古宮 (2))

高砂市 二戸 (高砂 (2))

家島町 三戸 (家島 (3))

津名町 一戸 (生穂 (1))

淡路町 四戸

(岩屋 (2)、共栄 (1)、岩屋加工 (1))

工 (1)

北淡町 八戸

(野島 (1)、富島 (2)、浅野 (1)、育波 (1)、育波加工 (1)、室津 (2))

一宮町 一戸 (江井 (1))

合計 三十二戸

(漁家二十八戸のうちディーゼル機関所有七戸)

この他、農林省統計調査部による漁家経済調査の対象漁家のうち本調査に協力する世帯が一五戸（うちディーゼル機関所有二戸）あり、標本総数は四十七戸となる。

なお、この調査には、農林省兵庫統計事務所、県内海漁連、信漁連、改良普及協会、鹿の瀬会漁業協同組合、市町村の物心両面にわたる協力を得ている。

ニ、動 向 調 査

- 1、聞取調査、集落調査等と兼ねて漁家の出稼ぎ状況、文化水準、二、三男対策等を調査する。
- 3、水産加工業者を対象とするもの

イ、全数カードによる調査  
前記世帯カードによって一部調査をするが、水産課消費流通係の協力で、詳細な調査を行う。

方法は、水産業改良普及員の聞取により加工業経営者すべての人に対して、カード記入をする時期は、七月下旬から八月中旬に行う。

ロ、標本抽出による聞取調査前記

## 漁場総合利用調査も同時に実施

経営分析調査と併行して次のように「漁場総合利用調査」を実施する。

「漁場総合利用調査」とは、既に分っている漁業経営の不合理な点と前記の経営分析調査によってえられた今迄分らなかった不合理性に対して、現在の科学的技術をもって、どのような対策をたてる事が出来るかを重点的に調査することが目的であり、第二年目の調査の中心になるものであるが、本年から一部着手したいと思っている。

1、漁場利用の状況調査  
鹿の瀬海域における漁業調整は昔から複雑をきわめ、紛争が絶えずおこっている。

イの中から標本を抽出して聞取調査を行う。

4、生産物消費流通調査

魚類の鮮度、生鮮出荷、現地加工、流通状況、市場の状況等をつぎの二つにわけて調査する。本調査は水産課消費流通係の協力により実施する。

イ、生鮮品調査

ロ、加工品調査

従って、本県の集約経営調査には調整問題の査調は欠かすことが出来ない。

具体的には次のような項目につき聞取又は資料分析によって行う。

- (1) 漁場利用の変遷と生産の関係
- (2) 漁場利用の変遷と労働力の関係
- (3) 漁業制度の改革に伴う漁場利用の変化

この調査は、神戸大学教育学部の協力により行う。

2、漁場調査

本海域の重要魚種であるいかなど及びたこを対象として、漁場測量と資源構成の分析を行う。又、魚

礁とその利用状況の調査も合わせ実施する。

この調査の具体的方法については神戸大学の協力をえて、本年九月頃に協議決定する。又、これとは別に、県水産課が実施している漁業協同組合からの「漁業種類別漁獲高月報」を参考にして漁況分析を実施する。

以上が調査方法の概要だが、これ

## 小型漁船機関の事故原因とその防止対策

漁船の事項を未然に防ぐためには日頃の心掛けが大切なことはいうまでもありません。古くから機関室に行ってみればその船のエンジンの調子がわかるとまでいわれていました。従って機関室は常に整理整頓、手入れが行届いていなければなりません。

これからお話しすることもこれらを基にして聞いていただきたいと思えます。

漁船機関には、電着、焼玉、ダイヤル等の機関があることは御存知

の成功するかどうかは、地元市町村及び特に沿岸漁業当事者である漁業協同組合や青年、婦人グループの熱意ある協力と理解にかかっている。幸いにして、すべり出しは好調である。

今後共関係各位の御協力をお願いしたい。

(県水産試験場)

の通りですが、これらの個々の機関について事故原因と防止対策を述べるとは別の機会にゆずるとして、ここでは、一般的なものだけについて話しを進めたいと思います。

事故を大別して次の三点に分けてみました。

- 1、クランク軸の折損
- 2、クランクピンボルトの切損
- 3、クランクピンメタルの割れ

まず、クランク軸の折損原因ですが、これはプロペラの推進によりこれを受止める推力軸受がないために

クランク軸が推されて折れる場合。シリンドラーのボーリングによりシリンドラー径が大きくなり、クランク軸の摩擦により径が小さくなって強度不足で折れる場合。軸心の調整不良によって、クランクが開閉運動を起し、疲労して折れる場合。長期間使用して自然に衰損しているもの、或は急回転により異状な力がかかる場合。常時負荷運転を行っている等のために折れる場合等、種々の原因があります。

クランク軸の折れ易い部分は、クランクアームとピンの上部結合部でこの場合は推力によって推された場合等が原因しています。また、クランクアームとピンの下部結合部分があります。この場合は、クランク軸の開閉運動によって折れる場合が多いのです。

ジャーナルとアームの結合部分、これは結合部の丸味が小さいとクランクが折れる原因となります。

そこでクランクを調べるときは、上述の部分特に注意して、僅かの「スジ」が入りはじめている場合でも見逃がさず、「スジ」があればロソクの火を近づけると、裂けている時は、中から油がしみ出してきます。僅かの「スジ」程度であれば細

目の鏡(やすり)で丸味を大きくつけて「スジ」がなくなるまで削り、油砥石で仕上ておき、次の分解の時によく調べて、新しく裂れが入っていなければ注意しながら使っても差支えありませんが、また新しく裂れがみられるときは、そのクランクは使用してはなりません。

ジャーナルとアームの丸味は普通は軸径で五〜六%位をとっていますので、小さいものは大きくしなければなりません。

次にクランクピンボルトの切損原因ですが、エンジン運転中の事故で一番大きいのは、クランクピンボルトの切損です。

クランクピンボルトが切損するとロッドはケースより足を出し、クランクは傷つき、ロッドは曲り、メタリは滅茶苦茶になり、ベツトには孔があきます。ピストンシリンドラーの裾部は破損というように恐らく修理が出来ないくらいまでに破損します。その原因は大部分がボルトの締付ナットを締めすぎてボルトが伸びだんだん疲労して、遂には切損します。また遊隙が増えてたかかれて切損します。片締め、材料不足、工作不良等の悪条件が重なって切損する場合等、原因は色々あります。そこ

で、取扱上の注意についてのべてみますと、まずボルトの締めかたですが、 $\frac{3}{8}$ ナットを締めるには手先で $\frac{1}{2}$ ナットは腕先で締めるのが普通です。そして割ピンにしる、ロックナットにしる、廻止めを確実にします。そしてナットをただ強く締めつけておきさえすればよいという観念をすてなければなりません。

特に一度締めて手ごたえがあった後、まだ締まるようなボルトは伸びているのですから、絶対に使用してはなりません。

ボルトの型、ボルト及びナットのネジについても、例えばネジについては雌雄のネジ山が合っていないものはどこまで手で締めても固さが同じであり、又どんなに締めてもネジ山全面があたってたおれることがあります。又全面であたっているもので余り強く締めなくても仲々ゆるみません。この様なネジが良いわけです。

以上のようにボルト、ナット、ネジ等が良く出来ていても片締めしたのでは運転中のピストン、ロッド、メタル等の運動部分の貫性による力が一方のボルトに全部かかり、設計以上の力になって切損する原因になるので、両方のナットを手で一ぱい

締め、次に軽くスパナで締め、最後に両方を一ぱいに締めます。

そしてこれは必ず一人で締めて絶対に片締めにならないようにするところが大切です。

最後にクランクピンメタルの割れる原因ですがまずクランクメタル裏金とロッドの合せ面の不良。ホワイトメタルの裏金への熔着不良。クランクピンボルトの締方によるメタルの歪み。メタルとピンの遊隙が過大の場合等が考えられます。

クランクメタル裏金とロッドの合せ面の不良は、クランクメタルはエンジン運転中に爆発圧力により、ロッドを通じてクランクピンに押しつけられるので、裏金とロッドの当が悪い時は遊隙のある部分は押されて曲げられたり又もどったりします。

ホワイトメタルの裏金への熔着は仲々むつかしい技術と経験が必要なので、外見上はついていても運転中についている部分とついていない部分の熱のつわり方が異なり、ついてない部分は熱のにげが悪く、膨張率が大きいので、ふくれて来てこの部分がたかかれて割れるものになります。

クランクピンボルトの締方による歪みは、これはロッド或はメタルの

合せ面が悪く、定盤の上へ置くと何処かすきがあり、ガタガタしていません。又ボルト孔が上下合っていないこともあります。このようなものを締付けると、メタル全体に歪みが来て最初に述べましたクランクメタル裏金とロッドの合せ面の不良のような現象を起して割れる原因となります。メタルとピンのすきが大きくなると、運転中ピストンの上下運動の移り変りの時にたたかれ、音がするようになることは良く知られていることです。普通20/100%以上になるとたたかれると云われています。これはメタルがいたむだけでなく、ピンの方にもたたかれて偏摩耗が早くなります。そこですきは10/100%程度にいつも調整して置く必要があります。

又クランクピンが偏摩耗していびつになり、その差が10/100%になると折角軸の圧力方向で10/100%のすきを作ってもその直角方向ではすきは0となりすきの調整が出来なくなります。又直角方向で10/100%のすきを作ると圧力方向で20/100%のすきが出来ます。そこでいびつ10/100%以上なれば修正して5/100%以内にして置きたい訳です。  
特に強圧給油のエンジンでクランク

クメタルよりガジヨンメタルに油のついていないものでは、このすきが多くなるとメタルが割れるだけでな

### 捲揚機の利用とその応用

## 第五回水産業改良普及研究発表全国大会より

発表者 茨城県大洗町漁業研究会

飛 田 広

### 動 機

私達の大洗町漁業協同組合は、茨城県沿岸のほぼ中央部にあり、一ト内外の小型漁船二〇隻による、シラス曳漁業、タコ、ヒラメ、タイ等の一本釣漁業を主体としている組合です。

この中で特にタコ、ヒラメ、タイの一本釣漁業を操業する漁船の大部分が、一トン以下であり乗組員も一人乃至二人乗りがその大半であります。従つて一人二人という、僅かな労力を如何にして、最高度に活用し漁獲能率の向上をあげるかが年来の課題でありました。

昭和三十一年度に、私達の研究会が誕生して以来、私達釣部門の間は第一に、この問題を採り上げ主要な研究テーマの一つとして、研究を

く、ガジヨンピンメタルの給油が悪くなり焼ける原因となります。

続けています。その結果初年度には足踏クラッチの考案とその利用により、タイ一本釣漁業の生産の増強に大きな役割をもたらし、更に三十二年度には、昨年度の全国大会において、発表したラインホーラー方式の応用によるタコ樽流し方法の機械化に成功、沖合漁場への進出を容易に漁場転換に機動性をもつことが可能となりました。

そこで一応初期の目的を達成することが出来ましたが、然しタコ漁の場合捲揚られた五〇ヒロ〜六〇ヒロの道糸を手でタコ樽に捲きつける労力は三〇ケ〜四〇ケ、或は二人乗りのように五〇ケ〜六〇ケ積込んでい場合、並大低なものではありません(タコ樽捲取りの一樽の所要時間は、普通五五ヒロで約一分程度)。

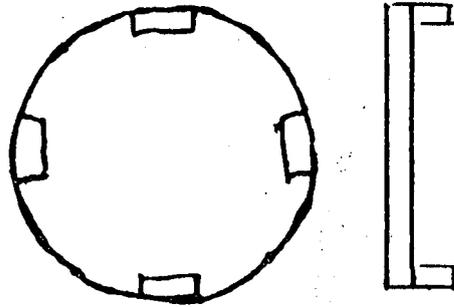
また、ヒラメ曳釣漁業も技術の導入と漁具方法の改良により従来考えられなかった程、漁獲の増強をみていますが、ナイロンの四分〜五分の道糸を手でたぐる場合、四〇ヒロ〜五〇ヒロの道糸をたぐる労力と、その消費時間は非常に多く、ことに一人で操業するような時、特に問題があります。餌付のあった場合、たぐりあげる道糸がナイロンのためスベリがちで、魚を逃す率が多く、また餌付のない時でも潜抗板を揚げるのに、相当抵抗が大きく三本あげるのに一五分〜二〇分程度かかるのが普通です。そこで私達はこのようにしたらヒラメ曳釣の道糸を薬に、しかも短い時間で魚を逃がさず、確実にたぐり揚げ、次の操業に入ることが出来るか、またタコ漁の場合、ラインホーラーで捲き取った道糸をどうしたらタコ樽に、能率的に捲き取る事が出来るかについて、研究することにしました。

### 過 程

何回かの釣部会の会を開いて討議した結果、手捲ウインチが、ドラムにワイヤーを捲き取ると同じ方法を利用してタコ樽をドラムがわりに取りつけて、捲取る簡単な機械は出来な

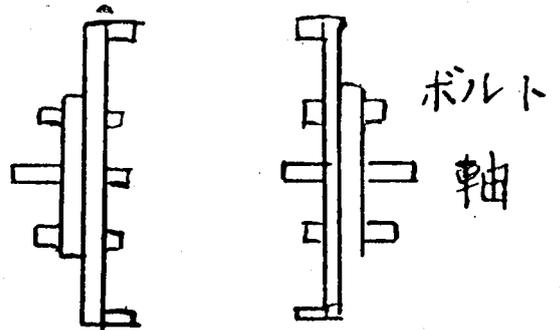
いものだろうか、ということになりました。そこでまずヒラメ釣りとか樽流しの両方に利用される樽を取り付ける装置について考えてみました。そこで始めに、第一図のような樽取板を利用して作りました。

第一図



次に、これをウインチのように回転させるには、これに軸を取付けることを考え、第二図のように作ってみました。また第三図のような軸受を作成し、これを厚さ二厘の板に取付けました。この際タルの長さを取付板の「ツメ」の長さを計算して取付位置を決めました。更に軸の一方に回転ハンドルを取付けました。これで一応樽を狭んで回転出来るところまで出来あがりしました。ところが狭んだ樽が、ハンドルを一〜二回

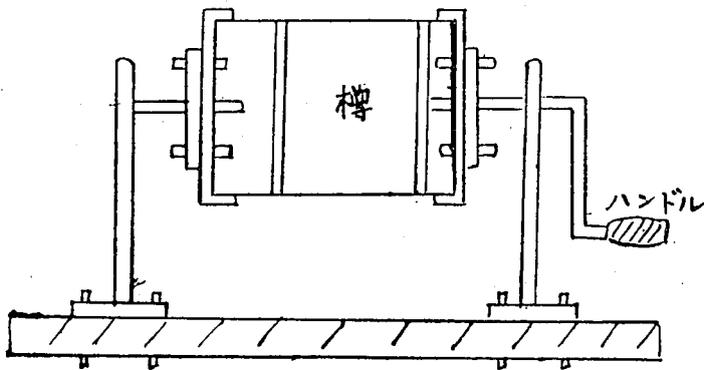
第二図



まわすとすぐはずれてしまうので、どのような方法で押えたら樽がはずれないでうまくゆくかについて考えってみました。その結果スプリングの利用に気付き、早速直径一・五耗伸縮三厘のものを使用して捲取ってみました。これで、手で五五ヒロのものを捲取るのに普通の人で六五秒ほどかかるものが、この捲揚機を利用すると、四〇秒程ですみました。早速これを海上で利用してみましたところ、二つの結果ができました。タコ漁の場合は、ラインホーラーで捲きあげる道糸を樽に捲取することは非常にうまくいきました。手で捲くとき、綿糸二五号の道糸が、乾い

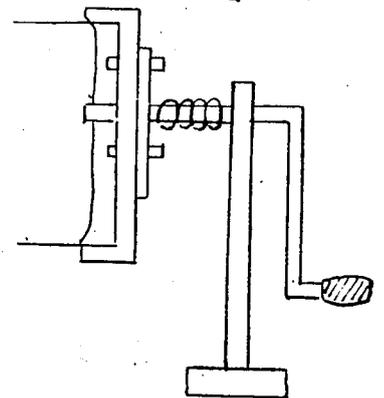
ている場合には、六五秒で捲けるものが、海水にぬれると八〇秒程度かかります。ところが、この捲揚機を使用した結果では、乾いている時と同じ四〇秒程度で捲き取ることができました。次の問題として樽の直径が、二〇厘のものと二三厘のものがあるため、直径の大きいものは、取付けることが出来ない欠点を発見しました。そこで更に色々議論し検討した結果、第五図のように、樽の取付板の「ツメ」にテーパをつけるこ

第三図



とにしました。早速作成してみたところ大小共にうまく取付けることが出来ました。一応できあがったので本格的にヒラメ曳釣漁業に利用してみました。その結果は失敗でした。それは道糸をいよいよ捲取ろうとしたところ、樽がすべって、からまわりして、捲きとれませんでした。そこで「ツメ」の内面に「ゴム」を張りつけ、スプリングを直径二・五耗、伸縮二厘のものと交換して実験したところ、今度は非常にうまくいきました。しかしスプリングが強くなったため、ハンドルを廻すのに抵抗が強いため、「スラスト・メタル」を第六図のように取付けると非常に軽く回転するようになりました。

第四図



この結果を研究会の席上で発表し捲揚機を中心に、会員が、手捲きと

図6

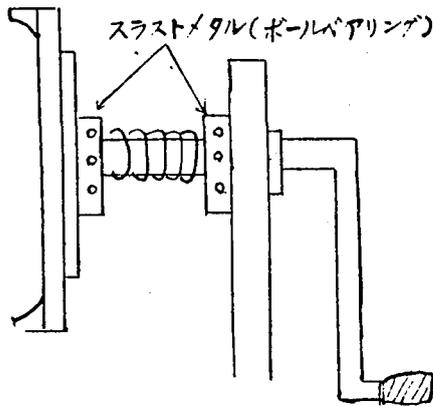
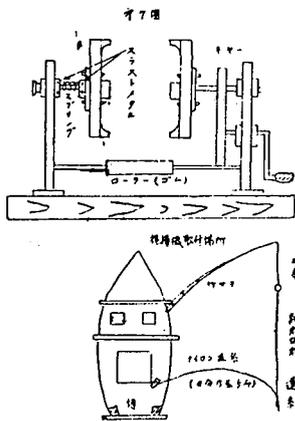
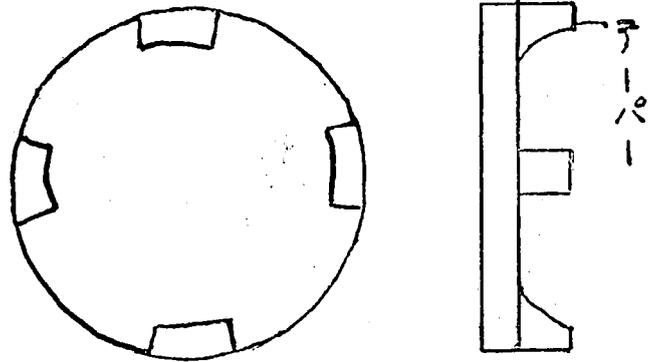


図5



本機を使用した際の時間の比較等を競争で実施したところ、『これはよいがもっと回転を早くした方がよいだろう、それには「ギヤー」を利用した方がよい』との意見ができました。そこで工場の方にお願しい「ギヤー」を作っていたいただき第七図のように取付けました。

その結果は「ギヤー」をつける前に四〇秒かかったのが、二〇秒で捲けるようになりました。また「ギヤー」を取付けるために、最初ハンドル側につけていたスプリングを第七図のように反対側につけ、更に捲取る折に平均捲けないことが多いので事前にローラー(ゴム製)を装置し道糸をこれですべらせ、手を利用して、捲取るようにしました。

### 使用方法

左右の板の間に樽を入れる此の場

### 効果

合道糸をローラーの中に入れる。右のハンドルか、スプリング式になっているので、引くことによって、板が開き、間に入れて挟む道糸が捲き終ればハンドルを引いて樽をとる。この場合樽の直径の大きい方を「スプリングハンドル」の方に入れるタコ樽を捲く場合は、ローラーを取りのぞき右手にてハンドルを廻し、左手をもって道糸の調整を行い、平均に捲きつける。糸が乾いても樽から道糸は落ちない。

またヒラメ曳釣の場合、右舷左舷の道糸に「跳ね切れ」を付けてその間に「カギ」をつけ簡単に操作出来るようにする。以上が本機使用方法の大様です。

まずヒラメ曳釣漁業の操業結果からみると、前にも述べましたが、手揚で潜抗板うけあげるのに一五分〜二〇分かかるのですが、本機を使用した場合、あげるのに一〇分以内で出来るようになりました。また骨が折れず次の漁具をすぐ使用できるので、時間に無駄がなく、漁獲の増収が目立つようになりました。特に風波の強い場合、餌付の時でも手廻しで捲き揚げられるので、自由に加減が出来、逃げられるという失敗はほ

とんどなくなりました。

タコ樽流についてみると、沖の漁場で道糸五〇〜六〇ヒロで五〇〜六〇ケの樽に糸を捲くには大変な時間と労力が必要です。そこで本機を使用してみると、従来の半分以下の時間で済み余った時間で、他の仕事が出来るとなりましたので、タコ樽流本来の機動性がより向上するようになり、新漁場への進出がよいよ可能になって来ました。また最近では、ヒラメ、タコ漁のみでなく、他の曳釣漁法にも本機が応用されるようになりましたが、これは特に手揚げと異なり、かみ合ったり、邪魔になる心配がなく、次の操作が簡単に出来ることに、大きな役割を果しているものです。

以上本機を使用して得られた効果について述べましたが、これらを要約すると次の通りです。

- (1) 労力負担の軽減、時間短縮による作業能率の向上。
  - (2) 製作費が安価で誰にでも簡単に操作ができる。
  - (3) ヒラメ、タコ両方の道糸捲付けに利用でき、道糸の邪魔が絶対にない。
- 以上のような効果により、現在では、私達研究会員の間のみでなく、

他の地域にも普及され、非常に喜ばれております。  
なお、今後の課題として、特にタコ漁でラインホーラーで捲取った道糸

を直接樽に捲取ること、更にハンドルの使用を機関の操作によって、取る方法について、研究を続けたいと思ひます。

# 全水共だより

## 全水共 兵庫県事務所

全水共兵庫県事務所が、昨年六月一日に開設され今日まで、一年余の歳月を重ね、開設以来本県各漁協の絶大な御協力と御理解のお蔭で順調な経過をたどり、加入成績は別表のとおりで、次第に伸びております。

本年三月内海方面のイカナゴ、込瀬網漁業の共済契約について奨励致しましたところ、予期以上の加入件数に達し加入件数では全国でも上位にのし上りました。

漁業共済制度は、漁業者の永年にわたる一致した要望により発足したものであるが、いざ契約という時になつて契約を躊躇するものが少なくないのであります。

これは漁業共済制度は保険の中でも一番難しい技術的構成の上に立った制度であるから、一朝一夕にこれ

を直接樽に捲取ること、更にハンドルの使用を機関の操作によって、取る方法について、研究を続けたいと思ひます。

を納得することは相当無理かも知れませんが、

しかしながら、今回本県の込瀬網業者の御理解のもとに、このような成績に達しましたことは、吾々関係当事者は深く感謝致しておりますのであります。

本年の込瀬網は不幸にして不漁に終りましたが、その支払に際し、過去の漁獲高によって限度額を算出するため、出漁日数等の関係で規定上、若干の不備な点があり、加入業者の方には充分御満足の得られる支払が出来なかつたことを遺憾に思っております。

このような不備な点を改正するよう、いま本所で水産庁に折衝致しており、来年度からは加入業者の方には、御迷惑をお掛けするようなこと

# 農林年金だより

## ◎標準給与定時基礎届の提出

毎年一回行われる標準給与定時決定を来る八月一日現在において作成し、同月十五日までに共済組合に届の提出をしなければなりませんから、必ずお間違ひのないよう期日までに提出して下さい。

## ◎月刊「農林年金」の発行

発足間もない農林漁業団体職員共済組合の種々の手続等は甚だ難解であるため、生きた実例で解説したり、読み物を加えたりして単位団体まで、必要事項の周知を図り、年金業務が円滑にゆくための月刊誌が発行されました(年間二四〇円)必要の向は左記にお申込下さい。

## 申込先

東京都港区芝西久保町桜川三

## 共済通信社

(振替東京四二二四)

はないと思ひます。

「本年漁業共済に加入してみたが思わしくなかつたから、漁業共済は駄目だ」と見捨てず、漁業共済をよりよい制度にするためにも、来年も是非加入していただき、不備な点はどしどし改正して、よりよい漁業共済に改めて行きたいと思つておる次第です。

厚生共済の加入についても漁業共

済と同様但馬地区を始め普及率が非常に早く、最近淡路生穂で総加入に等しい位の大口申込があり、引続いて増加申込が期待せられる。各漁協、漁協婦人部の皆様にも是非、漁業、厚生、火災の各種共済事業を御理解の上、御協力いただき、漁家生活の安定に努められんことをお願い致します。

## 漁業共済加入一覽表

昭和34年6月10日現在  
全・水・共 兵庫県事務所

漁業組合名	漁業名称	件数	共済限度額	共済金額	備 考
須磨浦	いかなご込瀬網	4	3,581,000	1,230,000	事故 4件
	"	9	6,640,000	3,908,000	" 6件
東垂水	"	6	965,000	482,500	限度額の2割に達せず、解約
	"	1	1,062,000	1,062,000	事故 1件
釜口	ぼら敷網	2	559,000	559,000	" 2件
	"	10	3,685,000	2,800,000	" 3件
富尾山	いかなご込瀬網	2	588,000	588,000	" 2件
	"	16	7,301,000	7,175,000	" 15件
丸山	"	7	3,345,000	3,252,000	" 5件
	"	1	580,000	580,000	
阿那賀	壺 網	4	50,517,000	5,320,000	
	いわし巾着網	(漁獲)1	5,682,000	5,982,000	
南香余	鯨大敷網	(漁獲)1	874,000	874,000	
	"				
合 計		64	85,379,000	33,512,500	

## 厚生共済組合一覽表

昭和34年6月10日現在  
全・水・共 兵庫県事務所

漁業組合名	甲 組		乙 組		合 計	
	人 数	口 数	人 数	口 数	人 数	口 数
内海漁連	4	13			4	13
兵庫庫	2	5			2	5
駒ヶ林浦	2	2			2	2
東須磨浦			10	14	10	14
須磨浦	9	9			9	9
塩屋	2	2	18	18	20	20
西垂水			1	2	1	2
岩見浦	4	11			4	11
鳥飼浦	1	5	1	1	2	6
丸山	1	1			1	1
但馬漁連	3	3	1	2	4	5
津居山港	58	66	20	20	78	86
竹野浜	7	8	3	3	10	11
香住	66	122	3	3	69	125
浜坂	10	12	5	5	15	17
諸崎	4	5	16	22	20	27
居組	23	23	67	68	90	91
合 計	196	287	145	158	341	445

註 内海 83 但馬 362

火災共済組合一覽表

昭和34年6月10日現在  
全・水・共兵庫県事務所

漁業組合名	組合建物		組合員建物		合計	
	件数	金額 万円	件数	金額 万円	件数	金額 万円
尼崎	1	60	4	160	5	220
尼崎西部	1	5	2	70	3	75
鳴尾	1	50	15	508	16	558
西宮東部	1	52	5	275	6	327
西宮西部	2	50	4	260	6	310
芦屋	1	67			1	67
本庄	1	100	29	590	30	690
青木			4	156	4	156
東灘			3	180	3	180
甲南	1	30	20	710	21	740
神戸戸	1	10	27	840	28	850
兵庫	1	95	14	545	15	640
駒ヶ林浦	2	100	5	275	7	375
東須磨	1	100	38	700	39	800
須磨	2	70			2	70
塩屋	1	10	1	20	2	30
東西垂垂水	1	70	1	80	2	150
西舞子	1	20			1	20
明石浦	2	400	182	4,672	184	5,072
林崎	6	985	27	1,425	33	2,410
屏風浦	1	20			1	20
西二見	1	100	2	60	3	160
西二見	1	100			1	100
阿開村古宮	1	100			1	100
阿開村本莊	2	150			2	150
別府	1	15	1	35	2	50
高砂	1	150	2	90	3	240
伊保	1	15	1	30	2	45
阿成			1	30	1	30
家島	2	80	1	30	3	110
坊勢	1	100			1	100
網干	3	377	2	63	5	440
岩見	6	573	58	278	64	851
室津	2	220	16	835	18	1,055
相生	1	100			1	100
坂越	1	70			1	70
赤穂	1	150	2	80	3	230
由良中央	1	200			1	200
由良中央			1	24	1	24
東洲良本	1	100			1	100
炬口	1	50			1	50
炬口	1	50			1	50
塩田	1	100	1	50	2	150
志築浦	3	130	2	80	5	210
生穂	1	40	27	340	28	380
佐野	1	100			1	100

漁業組合名	組合建物		組合員建物		合計	
	件数	金額 万円	件数	金額 万円	件数	金額 万円
釜口	1	70			1	70
仮屋	2	200	2	160	4	360
岩屋	1	70			1	70
富島	1	100	2	35	3	135
浅野浦	2	150	1	60	3	210
育波浦	1	50	1	60	2	110
室津浦	2	100			2	100
尾崎	2	102			2	102
郡家浦	4	230	3	85	7	315
江井	1	300	4	300	5	600
都志	2	80	6	100	8	180
鳥飼	1	25			1	25
湊	1	100			1	100
丸山	1	130	2	45	3	175
福良	4	500	2	60	6	560
南淡	3	65	83	170	86	235
沼島	1	100			1	100
内海連	7	1,330	28	1,790	35	3,120
県信連	3	145	1	16	4	161
揖保川	2	150			2	150
県外漁協	1	75			1	75
津居山港	3	500	33	1,201	36	1,701
竹野浜	2	270	101	1,398	103	1,668
柴山港	3	350	163	4,113	166	4,463
香住町	17	862	206	8,798	223	9,660
余部	5	500	20	758	25	1,258
三尾	2	200	40	972	42	1,172
浜坂	6	400	44	1,260	50	1,660
諸寄	2	357	39	1,875	41	2,232
居組	2	300	30	1,130	32	1,430
但馬漁連	22	1,370	7	310	29	1,680
香住町水産加工	1	200	38	2,160	39	2,360
合計	171	14,745	1,355	4,0377	1,526	55,122

### 昭和三十四年三月四月中の

### 海面漁獲量の概要

(兵庫県水産課)

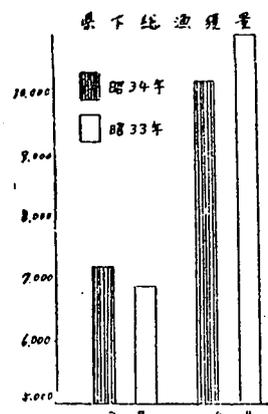
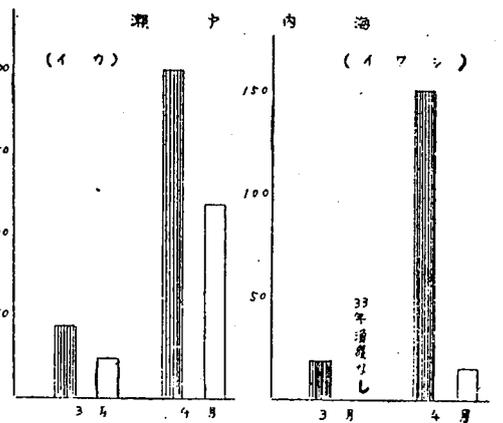
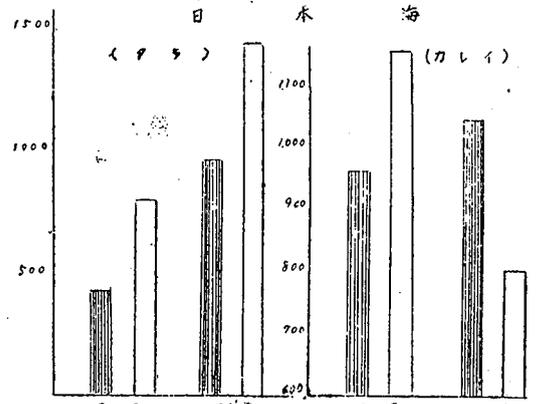
今期は、瀬戸内海では、イカナゴ漁業が本格的に始まり、日本海側では底びき網漁業が終漁期に入っているが、県総漁獲量では昨年同期及び過去五カ年平均とは、日本海側で僅か減少している程度で大差はない。三月中の総漁獲量は七、三三トンで前年同期の一〇五%、過去五カ年同期平均の一〇%と僅か上昇している。内海側では、カレイ(二・二倍)イカナゴ(二〇%増)藻類(五〇%増)が増加し、特にカレイの漁獲が著しく伸びており全体としては昨年より二五%の増加である。減少しているのはボラで五〇%減となっており目立っている。日本海側ではニギスが激増しているほかは減少したものが多く、昨年同期の八七%の漁獲にとまっている。特にタラの減少が目される。

四月中の総漁獲量は、一〇、二一トンで前年同期の九三%、平年漁獲量の九六%となっている。内海側ではイカナゴの盛漁期となったが、昨年同期の八七%と漁獲は少ない。カタクチイワシが昨年より少し早目に漁獲されている。そのほかイカ、ハモ等が五〇〜六〇%の増加でアジ、タコ、エビ等が二〇〜五〇%減少している。日本海側では底びき網漁業のカレイ、ハタハタが増加し、ニギス、タラ、サメ等が四〇%方減少している。

昭和34年3月中の海面漁獲量

(単位: トン)

海 区	魚 種	県			瀬 戸 内 海			日 本 海		
		34	33	増減量	34	33	増減量	34	33	増減量
総 計		7,230.8	6,889.9	340.9	4,208.0	3,367.1	840.9	3,022.8	3,522.8	500.0
イ	イカ	18.3	30.0	11.7	18.3	—	18.3	—	30.0	30.0
ナ	ナガゴ	2,967.3	2,399.3	568.0	2,967.3	2,399.3	568.0	—	—	—
タ	タカ	426.5	783.8	357.3	—	—	—	426.5	783.8	357.3
カ	カレイ・ヒラメ	1,135.8	1,232.3	96.5	417.4	76.5	97.9	961.4	1,155.8	194.4
イ	イサ	10.6	10.5	0.1	9.1	7.9	1.2	1.5	2.6	1.1
ナ	ナハ	1.3	2.2	0.9	—	—	—	1.3	2.2	0.9
シ	シラ	27.6	0	27.6	—	—	—	27.6	0	27.6
フ	フナ	0	0	0	0	0	0	—	—	—
ワ	ワラ	0	0	0	0	0	0	—	—	—
リ	リ・ハヤチ	4.8	2.6	2.2	0	2.6	2.6	4.8	0	4.8
ボ	ボラ	8.9	16.9	8.0	8.7	16.9	8.2	0	0	0
ハ	ハマ	3.3	1.1	2.2	0	1	1	2.9	0	2.9
ナ	ナゴ	60.2	63.4	3.2	59.6	63.4	3.8	1	0	1
シ	シイ	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メ	メダ	74.8	113.1	38.3	3.3	1.7	1.6	71.4	111.4	40.0
サ	サハ	605.5	477.0	128.5	—	—	—	605.5	477.0	128.5
ハ	ハタ	16.5	16.5	140.0	—	—	—	156.5	16.5	140.0
タ	タス	318.8	277.9	40.9	188.3	95.6	92.7	130.5	182.3	51.8
その他魚類		5,820.1	5,396.6	423.5	3,429.5	2,662.1	767.4	2,390.7	2,734.5	343.8
(魚類計)										
率		105	108	108	125	129	129	86	87	87



水産動物	スルメイカ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
	その他のイカ	42.0	26.7	15.3	157	40.9	24.8	16.1	165	1.1	1.9	△	0.8	58	
	タコ	134.5	123.7	10.8	109	111.2	100.9	10.3	110	23.2	22.8	—	0.4	102	
	エビ	57.1	51.0	6.1	112	19.1	22.5	△	3.4	85	38.0	28.5	—	9.5	
	カニ	530.4	710.3	△	179.9	75	2.1	1.5	0.6	140	528.3	708.8	△	180.5	75
	ナマコ	84.9	58.5	26.4	145	84.1	58.1	26.0	145	1	0	—	1	—	
	その他水産動物 (水産動物計)	16.6	6.7	9.9	248	3.5	4.5	△	1.0	78	13.1	2.2	—	10.9	595
貝類	401.0	422.6	△	21.6	95	373.4	398.6	25.2	94	27.6	24.0	—	3.6	115	
藻類	144.2	93.4	50.8	154	144.2	93.4	50.8	154	0	0	—	—	—	—	

昭和34年4月中の海面漁獲量

(単位: トン)

魚種	海 区				瀬 戸 内 海				日 本 海				
	34	33	増減量	率	34	33	増減量	率	34	33	増減量	率	
総計	10,211.5	10,980.8	△ 769.3	97	6,479.8	6,977.3	△ 497.5	93	3,731.7	4,003.8	△ 272.1	93	
魚類	イワシ	564.2	448.1	116.1	126	150.9	14.6	136.3	1,033	413.3	433.5	△ 20.3	95
	イカナゴ	5,068.2	5,797.9	△ 729.7	87	5,068.2	5,797.9	△ 729.7	87	—	—	—	—
	タラ	934.4	1,418.6	△ 484.2	66	—	—	—	—	934.4	1,418.6	△ 484.2	66
	カレイ・ヒラメ	1,138.7	894.4	244.3	127	90.2	88.1	2.1	102	1,048.5	806.3	242.2	130
	タイ	50.0	49.1	0.9	102	42.3	36.0	6.3	118	7.7	13.1	△ 5.4	59
	サバ	82.9	1.9	81.0	4,363	1.5	1.5	0	100	81.4	0	81.4	—
	アジ	98.0	53.7	44.3	183	8.4	10.9	△ 2.5	77	89.6	42.8	46.8	209
	サワラ	17.3	17.3	0	100	17.3	17.3	0	100	0	—	—	—
	ブリ・ハマチ	28.5	28.5	0	100	—	—	—	—	28.5	28.5	0	100
	ボラ	11.8	14.3	△ 2.5	83	11.8	14.3	△ 2.5	83	—	0	—	—
	ハモ	7.9	3.4	4.5	232	5.1	3.4	1.7	150	2.8	—	2.8	—
	アナゴ	62.4	60.7	1.7	103	61.9	56.6	5.3	109	1	4.1	△ 3.1	24
	シイラ	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	サメ	35.1	42.0	△ 6.9	84	8.1	1	7.1	810	27.0	41.0	△ 14.0	66
	ハタハタ	485.6	457.5	28.1	106	—	—	—	—	485.6	457.5	28.1	106
ニギス	326.3	487.5	△ 161.2	67	—	—	—	—	326.3	487.5	△ 161.2	67	
その他の魚類 (魚類計)	346.4	323.3	23.1	110	189.7	178.5	11.2	106	156.7	144.8	11.9	108	
水産動物	92.57.7	10,098.1	△ 840.4	92	5,655.4	6,219.8	△ 564.4	91	3,602.3	3,878.3	△ 276.0	93	
スルメイカ	0	1	△ 1	—	—	—	—	—	0	1	△ 1	—	
その他のイカ	204.0	121.9	82.1	167	200.2	118.9	81.3	168	3.9	3.0	0.9	130	
タコ	170.9	190.5	△ 19.6	90	142.3	171.0	△ 28.7	83	28.6	19.5	9.1	147	
エビ	53.1	86.3	△ 33.2	62	47.5	82.5	△ 35.0	58	5.6	3.8	1.8	147	
カニ	50.0	35.2	14.8	142	3.1	3.4	△ 0.3	91	46.9	31.8	15.1	148	
ナマコ	73.2	76.5	△ 3.3	96	73.2	76.5	△ 3.3	96	0	—	—	—	
その他水産動物 (水産動物計)	15.4	2.4	13.0	642	6.3	0	6.3	—	9.0	2.3	6.7	391	
貝類	233.5	197.3	36.2	118	217.8	183.8	34.0	118	15.6	13.5	2.1	115	
藻類	153.5	171.7	△ 18.2	89	134.1	121.1	13.0	111	19.4	50.6	△ 31.2	38	

(注) △は減、○は、漁獲量500kg未満(500kg以上は1トンに切上げ)

# われらの漁民銀行

## 兵庫県信用漁業協同組合連合会

会 長 島 田 文 治 郎

本 所 兵庫県立水産会館内 直通電話⑥0193  
但馬支所 香住町中浜頭 香住125

# 購 買 品 は 漁 連 て

## 兵庫県内海漁業協同組合連合会

会 長 三 浦 清 太 郎

本 部 兵庫県立水産会館内 直通電話⑤3424-5  
明石油槽所 明石市船町 明石3207  
富島油槽所 北淡町富島 富島 66  
仮屋出張所 淡路町仮屋 仮屋 59

# 購 買 品 は 系 統 利 用

## 但馬漁業協同組合連合会

会 長 西 上 重 式

城崎郡香住町香住 電話香住154

神戸市兵庫区  
新在家町



電話⑤8301(事務所)

電話⑤9563(宿泊所)